

## 令和7年度第5回世田谷区立図書館運営協議会

日 時：令和8年3月25日（水）午後6時31分～午後8時35分

場 所：教育会館3階大会議室「ぎんが」

出席者：委員（12名）

【学識経験者】糸賀委員（会長）、西村委員（副会長）、石原委員

【公募区民】三浦委員、宮岸委員、吉田委員

【社会教育関係者】佐藤委員

【教育機関関係者】豊泉委員

【図書館活動団体関係者】稲葉委員、結城委員

【図書館関連事業関係者】中垣委員

【世田谷区立小中学校長】前田委員

事務局（2名）

中央図書館（3名）

・図書館運営係長、図書館事業推進担当係長（2名）

次 第：

- 1 令和6・7年度の協議会活動実績について
- 2 「全館共通協議事項」について
- 3 協議会委員より意見・感想

午後 6 時31分開会

○会長 それでは、定刻となりましたので、令和7年度第5回世田谷区立図書館運営協議会を始めさせていただきます。

本日の出席は12名と伺っております。委員1名が欠席という通知が事前に届いております。また、副会長が少し遅れて会場に到着するというので、現時点ではまだお見えになっておりませんが、間もなくいらっしゃるものと思われま。

これまでどおり、本協議会の会議は公開となっております。速記の方が入っております、後日、会議録としてホームページで公開されます。

また、本日も傍聴の方が入っております。何名の方か事務局から報告をお願いします。

○事務局 現時点で6名の方が入っているというふうに伺っております。

○会長 6名が手続を済ませているということになります。

早速お手元の議事次第に沿って本日の会議を進めさせていただきます。

次第の1、令和6・7年度の協議会活動実績について、まず、事務局からの説明をお願いいたします。

○事務局 そうしましたら、資料1、令和6・7年度（第2期）の世田谷区立図書館運営協議会活動実績のほうを御覧ください。

資料のつくりについて簡単に御説明いたします。まず、1ページ目をめくっていただくと目次になるんですけども、皆様、2年間、本当に活動のほうありがとうございました。最初に、この協議会の概要について書かせていただいて、その上で、6年度、7年度の取組についてを記載しております。なお、全館共通協議事項に関しては、今日この後、皆様の御意見を踏まえて、こちらの活動実績のほうに入れさせていただきたいと思っておりますので、目次の右側のページ、こちらのほうに全館共通協議事項のページを追加予定というふうにさせていただいております。御承知おきください。

つくりとしましては、その後ろに資料集ということで、設置要綱ですとか、委員の皆様の一覧のほうをつけさせていただいております。

めくっていただきまして、1ページ、こちらは概要を記載させていただいております。記載のとおりでございます。

2 ページでございます。まず6年度の活動内容、(1)でございますが、こちらは振り返りという意味では、図書館ビジョンの行動計画に掲げる取組内容について、委員の皆様から意見や御提案をいただきました。評価・検証の反映、皆様からいただいた御意見については、この図書館ビジョンの行動計画に掲げられた取組内容に対する意見・提案ということで、次期区立図書館ビジョンの策定に向けた検討や、今後の施策への反映等に活用、実施されることが期待されるというふうに記載しております。

その下、(2)、7年度、今年度の活動内容でございます。まず、皆様には、今年度は中央図書館と地域図書館、15館の館長さんたちとこちらを対象に、6年度の各館の課題や目標、取組状況等について、我々係長や各館長とヒアリングをしていただいて、御意見や提案をいただきました。また、先ほどお話しした全館共通協議事項に関しても、テーマを絞って議論していただいているという状況でございます。

3 ページをおめくりください。こちらの今年度御意見をいただきました評価・検証の反映につきましては、各館取組シートに対する皆様の意見ということで、今後の各館における取組の改善や、効果的な事業等の企画、実施に活用されることが期待され、また、この全館共通協議事項、この後取り上げますが、こちらのテーマに関していただいた意見・提案については、区立図書館全般における課題として今後のサービスの見直し、展開に向けて活用されることが期待されるというふうに書かせていただきました。

その次、4 ページから、こちらが6年度の図書館ビジョンでの確認・意見シートのまとめたものを載せさせていただいております。そのまま行きますと、54ページまで、こちらまで一応6年度のときの実績を記載させていただいております。

その後、56ページ以降は、今年度行った各館との取組シート、こちらのほうを各館ごとに、一番最初が中央図書館で始まりまして、そこから各館ごとの御意見をいただいたものを記載させていただいております。

なお、96ページなんですけれども、深沢図書館のところで、前回、委員から御指摘をいただきました発言のところは修正させていただいて、赤い字で96ページの意見・提案のところを記載させていただいております。委員からもこちらは御確認をいただいているという状況でございます。

続きまして、つくりとしましては、この各館の評価の後に今日の全館共通協議事項が125ページの後ろに入りまして、その後ろに資料集という形で記載をさせていただいております。

全体のつくりと内容につきましては以上でございます。

○会長 ありがとうございます。ただいま事務局からこの活動実績についての構成とい  
いますか、全体の概要について説明いただきました。これについて何か確認、あるいは質  
問がございましたらお願いします。全体の構成です。内容についてはこれから検討してい  
くこととなりますが、よろしいでしょうか。

特に必要がなければ先へ進めさせていただきます。

次第の2に入ります。この活動実績の中の、先ほど紹介があった赤い文字の部分につい  
て、全館の共通協議事項、特定館だけではなくて、世田谷区の図書館全体について課題と  
なるような点を6つに絞りまして議論をさせていただきました。その集大成を今日やる  
ということになります。各館の評価、検証をしました際に見えてきた全館共通の協議事項、  
今申し上げた6項目に整理いたしました。これを事務局のほうで委員のお名前を明記した  
上で、現段階ではです。いずれ名前は消されることとなりますけれども、個々の意見や提  
案をいただいた方のお名前を明記した上でその内容をまとめ、さらに中央図書館として対  
応の状況、あるいは今後の見解、一応区立図書館としての対応の方針ということになりま  
すが、これが記載されております。今日はこのメンバーでの最後ということになりますの  
で、1項目ずつ事務局から説明をいただいた後、協議会としての意見や提案をまとめてい  
く、こういう流れで進めてまいります。ぜひ御協力をよろしくお願ひしたいと思います。

なお、本日も中央図書館の各係長さんがこの場に出席しております。時間の許す範囲で  
意見交換などができれば幸いです。

なお、時間配分は、全体で6項目ありますので、おおよその目安として1項目ごとに10  
分程度というのを想定しております。ただ、皆さんの関心が高いところ、興味が強いとこ  
ろについては多少時間を延長しても構わない、このように考えております。

それではまず、1の児童向け資料の貸出減少の背景と対策について、事務局から説明を  
お願いいたします。

○事務局 そうしましたら、資料2、全館共通協議事項を御覧ください。こちらはホチキ  
ス留めで別ペーパーにさせていただいています。

最初に、今日欠席の委員からメールで御意見もいただいております。途中で御意見を御  
紹介させていただければと思っておりますが、大きくは、図書館利用活性化のためには大

きく2つの道筋があると思います。1つは、わざわざ行きたい場所にする、もう一つは、誰でもどこからでもアクセス可能にするです。この2つは潜在的に互いに矛盾する2つの目標を同時に達成するために必要な戦術ですということで、4つほど御意見をいただいております。途中で御紹介もさせていただきます。

そうしましたら、資料2、全館共通協議事項、2ページのところから、資料のつくりに関しては、前回御説明をしておりますので、皆様からいただいた御意見と中央図書館の見解というところで、ごく簡単に御説明をさせていただきます。

2ページです。一番最初の御意見、こちらが保育園などの職場体験でおはなし会の際、中学生のスキルを少しでも身につけられるような機会、また図書館の学習センター機能として周知されていくことが必要だという御意見でございました。先ほど会長からお話がございましたように、委員の方のお名前は最終的には消させていただきます。矢印です。その下が中央図書館の見解でございます。図書館職員が中学生を対象にレクチャーすることは可能で、お近くの図書館に相談してほしい。図書館の学習センターとしての機能については、小中学校を訪問する際に御説明するとともに、校長会、副校長会の方などで周知をしていきたいということでございます。

続きまして、その次のポチとも2つ、ここは2つ紹介させていただきます。読書によって得られる論理的な思考力や想像力は本当に必要だと、文字を読むことによって登場人物の気持ちに立って考える思いやりの心を育むことが大事だ。子どもの図書館利用については、大人よりも子どもが考えたほうがいい。子ども読書推進会議のような会議体を立ち上げられるとよいという御意見でした。中央図書館としては、矢印のところ、各図書館には読書リーダーという組織があり、図書館内で様々な活動を行っている。子どもの図書館利用についても意見を聞く機会を設けることも考えていきたいということでございます。

その下のポチ、子どもが学校や図書館に行くことで、司書による専門的視点での本の提供が受けられるような環境を整備してほしい。子どもが足を運びたくなるような魅力的なイベントづくりも重要だと。中央図書館としては、中高生世代を含め、図書館に行ってみたくて思ってもらえるようなイベントを開催できるよう努めていきたいということでございます。

その下でございます。日本語が十分でない子どもや保護者に図書館を一つの居場所として認識してもらい、日本語に興味を持ってもらえるような取組を実施できるとよいと。中央図書館としましては、日常生活に必要な情報は可能な限り母語で提供できるよう資料の

収集方法等について研究していきたいという回答でございます。

続きまして、3ページ、外国語資料を重点的に収集する図書館を決め、利用者への周知もしていけるとよいと。これに対して中央図書館としては、現状は中央図書館が中心となって収集を行っている。こうした資料を必要としている方に情報が届くよう、広報の在り方について研究を続けていきたいという見解でございます。

その下のポチ、著名人を招いたイベントについては、その後の図書館の継続利用には結びつきづらいのではないかと。それに対して中央図書館から、御指摘のとおりだと、一過性にならない取組を考えていきたいという回答でございます。

その下のポチでは、子ども主体で考え、取り組むことで、図書館に行ってみよう、本を読んでみようという気持ちになるのではないかと。中央図書館としては、中央図書館で読書リーダーによるお勧め本コーナーに配架しているが、貸出率が高い傾向にある。全館的に行えるよう努めていきたいと考えているということでございます。

最後に、その下のポチです。子どもの時間の使い方やデジタル技術との関わり方を改善する必要もあるのではないかと。紙の本を手にとってもらう機会を増やすことも重要だという御意見でした。これに対して中央図書館としては、子どもたちと日常的に関わりのある学校図書館等が行ったほうがより効果的だと考える。学校図書館をサポートする形で紙の本の充実と利用促進についても引き続き取り組んでいきたいということでの見解でございます。

1項目めに関しては以上でございます。

○会長 ありがとうございます。この1番目が、やはり皆さんからの御提案や意見も多かった項目ということになります。これにつきまして、さらに、詳細な記述なり、あるいは追加事項とかがございましたら、今この場で御発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。この1番についてです。やっぱり子どもの利用がどこの図書館でも大体減っているんですが。特に追加の御意見はございませんか。

○委員 今思いついたんですけども、子どもが図書館に行かない理由として、行く時間がないからとか、こういう副会長の意見で、私も図書館の読み聞かせボランティア講座に行かせていただいて、とても役に立って、子どもと本を結びつけるようなことができすぎよかったんですけども、絵本以上、小学生だとやはり児童書とかにもっと触れてほ

しいので、そういう児童書を勧めるボランティアじゃないですけども、そういうのがあってもいいのかなと。例えば保護者の人が、読み聞かせの絵本だけじゃなくて、もう少し学年が上がっていくにつれて、面白い本とやっぱり子どもがなかなか結びついていない気がするので、私も学校の教室に読み聞かせに行ったついでに本とかを並べたいなと思いつつながら、やはりそういうことをやっている人もいないし、やっていいのかも分からないので、絵本と子どもは結びつけられるんだけど、それ以上の小学生と本を結びつける大人というのがやっぱりいないのかなと。でも、結構本が好きな子どもというのは多くて、やはり小学校に読み聞かせに行くと、このクラスはとっても本が好きですとか、先生はすごく本が好きですという声を聞くので、図書館にいい本がたくさんあるので、そこを結びつけられるような、読み聞かせボランティアに次ぐ何かができたらいいのかなと今思いました。

以上です。

○会長 確かに子どもさんといわゆる児童書、絵本の次の段階の本を結びつけるような役割のボランティアでもいいわけなので、そういうものが育てられると本当はいいと、そういうことです。それに該当するような方々というのは現時点では世田谷の場合、いないのでしょうか。

○事務局 図書館としては、そういった児童書を勧めるボランティアという養成講座は特に今のところ行ってはいないんですが、いろいろな小学校で、ブックトークという形でテーマを絞って本を紹介するというものがあるんですけども、そういった活動をされている方はたくさんいらっしゃいますので、そういった方々の活動をサポートしていくということは今後とも続けていきたいなと思っております。

○委員 うちの子どもの小学校はビブリオバトルをやっているみたいです。分かりました。大丈夫です。

○会長 ブックトークのボランティアはいらっしゃるわけね。読み聞かせとの違いはもう皆さんお分かりだと思いますが、ブックトーク、あるテーマについての本を紹介していくわけです。

○事務局 おはなし会のボランティアをやっていらっしゃる方がブックトークのほうもや  
っていらっしゃるという場合が多いので、たくさんいらっしゃるかと思います。

○会長 ありがとうございます。可能な範囲で、今の委員からの御提案も反映できると  
いいと思います。

ほかにはいかがでしょうか。

○委員 もちろんボランティアの方もとてもありがたいんですけども、各学校には学校  
司書とか、司書教諭とかがいるかなと思いますので、この間私も中学3年生の前でブック  
トークをしたら、その日は物すごくたくさん中3が来たりとかして、言えば来るんだと思  
って、次年度はホームルームにめっちゃ行こうと思ったんですけども、ボランティアの  
方はもちろんありがたいですし、公共図書館と学校図書館の、世田谷区は今、どういう感  
じで学校に図書館の先生がいらっしゃるかは私は知らないんですけども、その連携をも  
うちょっと取っていただけたらよいのかも今思いました。

○会長 ありがとうございます。多分、それは次の2番の項目とも関係してくるんだと思  
いますが、続けて、委員。まとめて事務局のほうから説明、回答をお願いします。

○委員 今の委員と一緒に、中央図書館が、各小中学校のそういった活動されているボラ  
ンティア団体の数であるとか、月に何回各学年に行っているとかというのをどれぐらい把  
握しているのかなというのが1つ気になります。保護者が毎朝読み聞かせをしに行く小学  
校もあれば、月に1回とか1学期に1回とか、ボランティアの方が読み聞かせをする時間  
を設けているという学校もある、やっぱりばらつきがかなりあると思うんです。それをマ  
ネジメントしてくださっているのは、おおむね副校長先生であったりとかという形になっ  
ているので、少なくとも私が話を聞く範疇、目にする小学校の状態を考えたときに、それ  
こそ後の項目にも関わってくるんですが、学校図書館の司書であったりは、ほぼ機能をな  
していないと私は思います。書架の整理であったりとか、図書室の管理はしてくださって  
いますが、いわゆる学校司書の役目というか、最初は「ゾロリ」から入ったけれども、そ  
こからその子の興味を何となく見定めて、次はこれがいいんじゃないの、これがいいんじ

やないのというような働きかけをされているところが果たしてあるのかなというのが、私は今現状を見ていて、どうなんだろうというふうにとっても思います。これはあくまでも小学校の話なんですけれども。

その図書室に関しても、何年か前に「ぎ・ちゅうおう・ふれす」か何かですごく素敵な図書室を紹介していただいたときもあったんですが、あれは非常にレアな事例かなと思っていまして、学校の図書室をどうつくっていらっしゃるのかというのは、もう少し中央図書館なりなんなり、現場というか、関わっていただけると、私はいいかなと思っています。図書館だよりしかり、いろんな貼り出しなり、それこそ新刊紹介しかり、かなり多分皆様の御想像とは違うんじゃないかなというふうに思うので、いろんなボランティアの方、関わりたいという方や保護者の方がいらっしゃるので、そういった方と学級文庫を整えたりということはしているんですけども、限界があります。やっぱりふだん学校で生徒と触れ合ってくださいしている先生方なり、学校司書の方なりがこの掲げているものをもう少し向き合ってやっていただかないと、ここに関してはいつまでたっても平行線かなと思うので、少しその辺りの数字であったりとかを把握していただけるといいかなと思います。

○会長 ありがとうございます。今の御指摘について、事務局のほうで何か反応、回答がありますか。

○事務局 学校図書館の運営なんですけれども、世田谷区の場合は、小学校と中学校、それぞれ事業者のほうに委託をしているという形で運営しております。そのため、図書館と学校図書館が直接の連携をつくるというのが、ちょっと制度的に難しい面もあるんですが、ただ、地域の学校については、各図書館のほうがそれぞれの主体性を持って、学校図書館の運営であったり、あるいは相談事、そういったものに応えられる体制づくりというのは進めていきたいなというふうに思っております。

活動状況を把握しているかという点なんですけれども、それについては、中央図書館のほうでは特に把握はしておりません。

○会長 というのが実情のようなんですが、ここらあたり、学校からお出になっている委員、いかがですか。ちょっとこれは次の2番とも重なっちゃうんですが、学校、地域との

連携ということなんですが、やっぱり子どもさんの利用について、学校のボランティアだとか、あるいは今出た学校司書の先生方との連携みたいなものというのはもう少し強化できる余地があるんでしょうか。

○委員 強化できる余地があるかという、それはあると思います。今、それが進んでるかという、やはり学校図書館と地域の図書館がなかなか密な関係にはなっていないという現状はあると思うんです。小学校と中学校で違うと思いますけれども、どういった連携がいいのかということを探っていないと、連携ありきじゃなくて、どういったニーズがあって、どういったことができるのか、やっぱりそこが連携がうまくいく、あるいはイベント的に終わらないポイントになるんじゃないかなというふうには思います。

○会長 ありがとうございます。そういう本と子どもさんをつなぐ役割をもう少し、質と量の両面で充実させていくということが必要なように思いますね。これは次の2番とも重なるので、また2番のところでも御議論いただきたいと思いますが、1番のところ、これは私が前から申し上げているんですが、今も出てきた学校司書の方、これも今非常勤なわけです。それから、子どもさんたちからすると、学校司書であってもやっぱり先生なんです。実際には学校司書の方は教員免許を持っていないことが多いので、先生ではないんですが、子どもさんたちから見ると、学校にいる大人はみんな先生に見えちゃうというところもある。

私が言っているのは、例えばここで今、読書リーダーというのを世田谷区で、先ほど聞いた全部で50人ぐらいいるんだと、それから、小学校や中学校、特に中学校では、図書委員が各クラスにいるんですよね。各クラスに2人ぐらいいるとすれば、私はそういう生徒さんがもう少し自分たちでレイアウトするとか、何か自分たちが考えた展示を学校の図書館でやってみる、あるいは地域の図書館で、今、この中央図書館は弦巻中学校の図書委員の方が展示をやっていて、友達がそういう展示をやっていると聞いたら、冷やかし半分でもいいから、その友達が図書館にやってきて、へえって言いながらその本を手にしてみるという可能性もあるんじゃないかと。そういう意味で、私は図書委員同士の、いろんな中学校同士、ほかの中学校と図書委員が一緒になって展示をやるとか、本を選ぶ、選書をやってみるとか、あるいは生徒さん主体の何かイベントをやる、そういうふうなことを考えたほうが、多分生徒さんは、先生に言われる、親に言われるよりも、自分たちでこの

本がよかった、こういう本があると楽しいとか、そういう雰囲気になれるんじゃないかと。

だから、提案にすぎないかもしれませんが、私が言っているのは、とにかく子どもさん主体、生徒さん主体で、そういったイベントをやるとか、展示をやってみるとかということも考えていいんじゃないか。そのときには、せっかく図書委員がいるのであれば、図書委員って別に、多分、私がかつて中学生のときにやっぱり図書委員をやっていましたが、自発的に自分が本が好きで図書委員をやりたいというのもしれば、たまたま委員の成り手がなくて引き受けちゃったというのがいるんですよ。でも、図書委員という名目であるからには、何らかの形で本や図書館とのつながりを持ってもいいんだということを感じているはずなので、そういう生徒さんの活用もちょっと視野に入れてみたらどうかという提案であります。

今後、どういうふうな形で区のほうでこれを実践していただけるのかはともかく、協議会として、こういう提案はいろいろとしていったほうがいいだろうと思います。

次の2番のところでも若干重なりますので、2番の説明を受けて、今までの議論を踏まえて、また御提案や御発言をいただいてもよろしいかと思えます。

それでは、次の2番に移らせていただきます。ここは学校・地域との連携事業の課題と対応（生徒による学習目的利用を含む）ということになっておりますので、まずはこの説明をお願いいたします。

○事務局 そうしましたら、4ページの真ん中から下のところです。協議会からの意見・提案と中央図書館の見解ということで御説明いたします。

最初のポチです。出張おはなし会など、事業の働きかけをしていくとともに、学校図書室のフォローができるのではないかとという視点で関わっていけるとよいと。中央図書館としては、学校、先生方の働き方の状況を踏まえ、これまでとは異なるアプローチが必要と感じており、学校図書館運営受託事業者とも連携を取りながら、良好な関係を築いていけるよう努めていきたいということでございます。

その下のポチ、こちらが対話を通じて適切な資料へ導くナビゲーターとしての、そういった図書館の役割も1つではないかという御提案です。中央図書館としましては、百科事典の使い方や調べ学習のやり方などの講座を開催している。1日限りのスポット的なものになってしまうことがあるので、同様の事業をまだ未実施の学校図書館に対しては支援を

していくなど、今後、こういった研究をしていきたいという回答でございます。

次、5ページ、こちらのポチでは、学童保育、こちらには児童書やクイズ系の本が置かれていないため、本をもっと置くことで本に親しみのある子どもが育つのではないかとこの御提案です。こちらについては、中央図書館からも団体貸出制度というものがあるので、こちらをぜひ活用してもらえよう、BOP等、学童保育、こちらのほうに周知をしていきたいという見解でございます。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。こちらの2番は学校、そして地域との連携というふうに銘打っております。先ほどの話の延長でも結構ですので、これについてはいかがでしょうか。

○委員 学校図書室と図書館の連携について、どのような方策があるのだろうと私もイメージが湧かない中ではありますが、例えば子どもが在学中、小学校、中学校におりましたときに、図書だよりのようなものが毎月発行されていまして。図書室の先生と司書教諭の方が、子どもたちが読んでいる図書室の今月のお勧め本であるとか、高学年にはノンフィクションを読もうとか、いろんなテーマを持って生徒たちに読書を促している様子がそのレターによってよく分かりました。そういうものが地域の図書館でも入手できる、そういうことだけでも、かなり学校の図書室の動向を知る手だてにならないかなというふうに感じております。

また、学校へのアウトリーチについてなんですけれども、学校には学校のおはなしボランティアの方がいて、図書館には図書館を活動の場所にして、ボランティアで子どもと本のつなぎをしているグループもあります。アウトリーチに図書館でボランティアをしているグループが同行する例というのがあるのだろうか、ある図書館もあるかもしれませんし、どうなんだろうと思っています。疑問としては、そのアウトリーチの時間帯に学校の読み聞かせボランティアが関わっていないんだとしたら、例えば学校の読み聞かせボランティアが使える時間というのは非常に限られていると思います。朝読書の時間も短いですし、紹介できる本、読める本もすごく限られているはずで。図書館から行くアウトリーチが、もし時間的に少し余裕、朝読書よりも多い時間を学校からいただけているのであれば、そのときにこそ、人材的に活用できるボランティアを使っただけならなというふ

うに感じます。

もちろん入念な準備をされて、図書館の職員の方がそのプログラムを御準備なさると思うんですけども、例えばお話の中に素話、語りというような、そういうカテゴリーがあります。全く本を用いずに、伝承で伝わってきた話を丸ごと覚えまして、子どもたちに想像力を使ってもらってしっかり聞いてもらう、そういうようなものは、日頃の業務をしながら準備するというのは非常に大変ですし、緊張感があると思います。失敗したらどうしようとか、真っ白になってしまったらどうしよう。でも、世田谷区内にはたくさんの現代の語り手というんですか、そういう場があれば、いつでも話を語れるように、レパトリーを広げたり、準備している人たちもおりますので、もし時間的にアウトリーチのほうに朝読書よりも時間があるようでしたら、学校ボランティアでも結構ですし、その図書館で活動しているボランティアでも結構ですので、内容を少し具体的に、例えば科学の本でブックトークをしてほしい、そういうことを専門にできるボランティアの方も恐らくいろいろ皆さん、中央図書館の方ならコネクションがあると思います。それとか、卒業間近の学年に行くので、少したっぷりとした冒険心を感じられるような話をしてもらいたいとか、そういうことで連携を図っていただいたり、充実したものにさせていただけたらいいなと思いました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。委員が前々から御発言いただいている内容を少し補足していただきました。アウトリーチの問題だとか、出張おはなし会での時間の使い方、こちらあたりは、若干これとは違うのかもしれませんが、こういうボランティアを受け入れる側として、現在の世田谷での何か課題というのにお気づきでしたら、補足していただきたいんですが。

○委員 ちょっとずれちゃうかもしれないんですけども、図書だよりとかは、子どもが作る図書だよりと、それから学校司書が作っているものがやっぱりあるんです。連携する中で、やっぱり学校司書が作っている図書だよりを地域の図書館にも見てもらって、それを一つのコミュニケーションの手段にするのはいいかなと思うんです。率直な話、あの感想を言ってもらっただけでもいいし、うちの図書館ではこんなことをやっていますよとかいった情報が相互交流できる一つの材料になるんじゃないかなと思います。子どもが作る図

書だよりというのは、やっぱりそこまで至らないです。例えば何々先生のお勧め本がずっと続いて、身近な先生のお勧め本だからというところで止まってしまったりとか、それからやっぱり図書室の使い方が最近こうだねとか、静かに使いましょうとか、貸出冊数が何月はどれぐらいでしたとかいうものになるから、司書が作っている質的にやっぱり大人レベルのもの、それをコミュニケーション、相互の交流の手だてにするのは有効かと思いました。

○会長 ありがとうございます。

ほかにこの2番の項目についてはいかがでしょうか。

○委員 さっき2番のところで主張すべきでしたね。2番については、もう本当にお願ひしたいという気持ちでいっぱいでございます。ただ、高校では、地域の図書館が各小学校にみたいな感じなので、世田谷区はたくさん図書館があるかなと思うと、うまくアプローチできていない地域図書館があったりして、学校によって偏りがあったりするのではなくて、どの学校にも機会があるように、中央図書館さんが音頭を取るとかというふうにしていただけるとありがたいなと思うし、これは個人的な話ですけれども、私立の図書館もいっぱいあると思うので、入れていただけたらなというふうに思いますというのが1つです。

もう1個は、12番の対話を通じて適切な資料へ導くナビゲーターとしてみたいなやつなんですけれども、児童も生徒も図書館にいる人が本を探す相談に乗ってくれるということを実際に知らなくて、多分それは公共図書館でもそれをしていいって知らないんじゃないかなと思うと、これは常にスポットで何かするとかじゃなくて、常に話を聞くし、答えと一緒に探すんじゃなくて、探し方を一緒に探すよみたいな、小説でもいいし、レポートとかでもいいんですけれども、そういったことをよりPRできたらいいなと思います。

以上です。

○委員 私もほぼほぼ同じなんですけど、図書館が何をしているところかということに対して、イメージを持っていない人というのがやっぱり少なからずいる。家族の会話の中で、たまたま行政書士か何かの会合を某図書館と一緒にやったんだけど、そんなことってできるんだねみたいなことが会話の中に出まして、何を言っとるんだと。確かに家庭内の

事情によるので、会話がなかったというのが全てなんですけれども、私がよく行く図書館の中で、いろんな催物というか、図書館がやっている催物、大人向けのこととかも何度かもうやっているし、行ってくるねと言いながら、そういうことを私がやっていたはずなのに、その一番近い家族が全くそれを分かっていなくて、この間、ぼうっとしながら、こういうことをやっていたんだけど、図書館ってそういうことをやっていいのみたいなことを言われました。何じゃそりゃと思ったんですけども、結局図書館に対するイメージが、すごくまだ固定されてしまっていて、いわゆる地域の人たちがどう図書館を使えるのかという部分のお互いのインフォメーションであったりとか、話を持ってきてもいいんですよみたいな、お互いの連携がまだまだ足りない、特に大人に対して。子どもは、読書会なり、読み聞かせなりをやっている保護者は、小学校は子どもだよねというのは、何となく敷居が低いんですけども、いわゆる大人、地域の方に関しては、まだまだそういう認識がない場所なんだな、いわゆるもう本当に本を借りて読むだけみたいな感じなのかしらというふうになんかちょっと思ったりもしました。

なので、もちろん子どもから、でも、だんだん生涯学習であったりとかという視点からいくと、もう棺おけに入るまでというふう考えたときに、そういった各世代に対するいろんなアプローチ、あるいはやってくるのを待つだけではなくて、地域に何となく乗り込んでいくみたいな、地域の集まりフォーラムみたいなのにちょっと顔を出していただくとか、こういうことができるんだけど、どうかなみたいなことのできる関係性をどこかでつくるようなことができる、またちょっと違ってくるのではないかなと。足を運ぶ地味な活動にはなると思うんですが、図書館に足を運ぶ、図書館でこういうことができるかもしれないという窓口になるという可能性をもう少し模索できるんじゃないかなというふうに1点思いました。

あとは、やはりここの記述にもあるんですけども、中学校と小学校で図書館の委託先が違う。そこで、なかなか働きかけができないというのは、翻ってみると、今、地域の図書館に指定管理を入れている最中で、本来だったら直営が指定管理に対してのある程度アプローチをするとか、主導という言葉はどこかで使われたと思うんですけども、ということ考えた際に、区のほうからとか、中央図書館からとか、もう少し関わっていく方向で、どういうことをやっていらっしゃるんですかという形の、すごく変な言い方をすると、品質管理じゃないですけども、何をやっているのかというのをもう少し見ていただく。中央図書館のテーマの一つにマネジメントというのがあったと思うんです

けれども、そういうちょっと働きかけをしていただくことによって、個人に任されているようにしか思えない学校図書室が、もう少しブラッシュアップできるような気が私はします。複数名で運営していたり、1人の方が運営していたり、いろんなパターンがあると思うんですけども、やっぱりそこに乗かってしまっている、それでいいというふうになってしまっているという気が私はここ数年すごく強く感じているので、よりよくしてもらいたい。やり過ぎたら駄目みたいなのではなくて。

何でかという、その利益というか、そこは子どもに関わるからです。よりよいものを子どもに提供していただきたいというときに、できないほうに合わせるのはおかしい話だと思うんです。これぐらいやれる方がいる、こういうアイデアがある、では、そこをまねしていこうというふうにやっていただきたい。それは多分、学校だけではなくて、地域に関しても一緒だと思うんです。なので、そういったいろんな年齢、いろんな世代に対する働きかけと同時に、いわゆる公立の小中に関して、あとできれば幼稚園、保育園、おでかけひろばに関して、もう少しちょっかいを出すというか、こういう本が借りられますよとか、こういうふうな仕組みがありますよというのをもう少し広めていただきたいというふうに思いました。

以上です。

○会長 ありがとうございます、お話の範囲としては従来の公立図書館側から学校への働きかけ、さっきアプローチという言葉もありましたけれども、そこをどうやって充実させていくかという、その突破口のようなものはなかなか見えてこなくて、働きかけが必要だというのはよく分かるんですが、今までの御指摘について、中央図書館側から何か反応があればお聞かせください。

○事務局 明確にこれだというお答えはなかなか難しいところですが、私のことで恐縮なんですけれども、立場上、学校の司書さんの委託に関して、プロポーザルという形で事業者から提案を募って、この事業者にしますというその選定委員をやらせていただいているんですけども、事業者から上げてくる、我々はこのことができますよというその提案内容の中には、今おっしゃっていただいたようなことは結構しっかり書かれているんです。図書館との連携とか、地域との連携というのは当然うたわれていますし、我々はこんな実績がありますというのを、こちらを見ては感じるんですけども、ただ、実態をいろ

いろ聞いていきますと、やっぱり司書の方によつての力量の差も現実には非常に大きくて、先ほど場所によってはできているといったお話があったと思うんですが、まさにその力量の差というのが出てきてしまったのは確かだと思います。

あともう一つ、図書館側からの働きかけがちゅうちょしてしまうところの一つの要因としては、やっぱり今教員の働き方改革もございまして、果たしてまた新しい仕事になってしまうようなことをどこまでお願いしていいのか、そういったところもございまして。

ただ、それだけ言っても進まないの、いわゆるできている図書館と学校との関係というところが多分あると思うので、先ほど管理運営方針の指定管理を入れてという話もしていただいたと思うんですけども、これは直営側の今後の課題としては、やっぱりいいことをやっている館があったときに、それをほかの館にしっかり広めていく。これは指定管理と直営だけじゃなくて、直営同士もなんですけども、そこを新しい仕組みの中でしっかりとやっていくことで、少しでもいい取組を全体に広げていくということをこの何年かでしっかり成果として出していきたいなと思っております。

以上です。

○会長 ありがとうございます。この場は実は学校図書館の運営協議会ではないんですね。だから、学校図書館の在り方というよりは、公立図書館側から学校、要するに教育という営みをやっている学校全体にどう連携するかなんですよ。学校図書室との連携だけじゃなくて、先生方を含めた学校との連携をどうするか。実はこの2番のところには、最後に「(生徒による学習目的利用を含む)」となっているんです。これは、むしろこちらについて公立図書館の図書館運営協議会としてはいろいろ意見を出していきたいわけです。

新しくできた梅丘の図書館、ちょうど視察に行こうと思って、開館ときにすごい雪が降りまして、私も当日行けなかったんですが、後日行きました。いらした方も多いと思うんですが。一方で、つまり、公立図書館を生徒さんが専ら学習目的で使っている。梅丘の図書館に先週行ってきましたが、もうそういうのがすごく多いわけですね。だから、学習室がどこも、世田谷の区立図書館はみんな結構大きなスペースを取るようになってまいりました。このあたりについてどう考えるかなんです。普通の社会人の方、あるいはシニア層の方が何か調べるために図書館に行っても、なかなか今度は席が空いていないという状況も見られるようになってきているわけです。生徒さんによる公共図書館を学習目的で使うということについて、何か御意見があれば、ぜひこの場でお聞きしておきたいんです。

が、いかがでしょうか。現状でいいと。つまり、結構生徒さんが勉強のためにひたすら、それは勉強すること自体は悪いことではないので、いいんですが、そのためになかなか普通の公共図書館の利用者の方の席が、特に土日祝日、夏休みとかになると見当たらないという現状もあるんですが、そこらあたりは特に御意見はございませんか。

それをお聞きした上で、次の3番のテーマに移らせていただきますので。

○委員 知っている子どもたちの意見としては、やっぱりありがたいの一言になります。ただ、図書館だけではなくて、世田谷区はいろんな公共施設を今開けてくださっているのですが、ただ、それもやっぱりなかなか子どもたちが知らない。勉強イコール図書館へ行こうみたいな、逆に親御さんのほうも図書館ならいいわみたいな感じの図式がまだちょっとあるので、そこはそういった子どもの居場所というか、スペースを世田谷区がこれだけやっているんですよというのをもう少しアピールしていただきたいと思います。

あとは、小さいお子さんがいらっしゃる保護者の方に言わせると、ちゃんと勉強しているとか、ちゃんと使っている方はいいいんですけれども、やっぱりソファ系のがちょっとくせ者で、どういう座り方をしているかみたいな、ちょっとううっ、みたいな感じの態度をされている方もたまに散見され、そういったところを少し気にされる方もいる。それは多分もう前回のときに、いろんな図書館でどういう対応をするかというのが出たと思うので、そういったところを気をつけてやっていただければいいかなと。あとは時間帯で、例えば使える年齢層を変えてみるとか、夕方以降はやっぱり学生専用だけれども、昼間は誰が使ってもいいよとかというような、ちょっと工夫をしていただきながら、うまい着地点を探っていただければいいのではないかなと思います。

○委員 梅丘図書館の開館の日に伺いました。そのときに、中学生4名が挨拶に立たれて、直接中学生の声を聞いたことは私にとってとてもよい経験になりました。やっぱり若者のというか、児童生徒の声は、本人が言う言葉で聞かないと何を考えているか分からないというのと、当日のその挨拶が、大人に言われた言葉ではなくて、本人たちが準備をあまりしない状態でといたしますか、本当に自分の言葉で、2校の中学生が挨拶に立ったことをいいなと思いました。どのように学校にアプローチされて、どうやってこの4人は選ばれたんだろうと思いました。そういう小さなことでも図書館と学校がつながる一つの契機だったと思います。

先ほど委員が、子どもの作るたよりはあまり内容的にどうかと思うとおっしゃいましたが、やっぱりそういうものを見るだけでも、今の中学生が何を考えているのか、学校の先生とどう関わっているのかとか、やはりそういうものは大事な手だてじゃないかと思えますので、勉強だけに、学習に閲覧室やコーナーが占められてしまうことはどうかというのは問題かもしれませんが、すごく期待を持って、あのときの中学生の挨拶の中にも、もうじき期末考査が始まる、そのときは早速来たいと思いますという生徒さんがいました。だから、図書館が自分にとってどういう場であるというのは、個人でいろいろだと思えますが、少しでも多く活用されるというふうに考えてみてはどうかというふうに思いましたし、時間差で利用者は変わるということもあるかと思えますので、受け入れてしかるべきかなと思いました。

○会長 ありがとうございます。基本的には現在の使われ方について肯定的な意見が多かったように思います。ただ、そうすると、中学生の数に比して、そういう座席数が十分なのかどうか、その辺が若干気がかりではあります。中学生は当然もっと多いわけなので、その辺の配慮を考えた上で、公立図書館と生徒さんの利用のバランスを考えていくべきなんだろうと思います。

今出た意見を、いずれこの報告のほうにも反映していただけるものと期待しております。

次に、全部で6つありますので、差し当たり次の3番の項目「分類と配架・書架見出し・展示のあり方」について、皆さんの御意見をお聞きしたいと思います。

これはまず事務局から説明ですか。どうぞ。

○事務局 そうしましたら、事務局のほうから簡単に御説明させていただきます。6ページです。中段以降、まず1つ目のポチが、見出し語や配架順について、こちらは各館の個性を残しつつ、一定の統一感があつたほうがよいのではないかと。それに対して中央図書館としては、個性を残す部分と利用者のために共通したほうがいい部分を見極める場を将来的に設けるなどしていきたいということです。

2つ目のポチ、館内の見出しや案内表示の分かりやすさが重要だと。こういった御意見に対して、中央図書館として、サインについては、来館者の動向等を踏まえながら、継続的に見直しや改善を重ねていくことが重要と考えている。改めて共有をしていきたいとい

うことでございます。

最後、3つ目のポチです。こちらが図書館においてもNDCの分類にこだわり過ぎず、そういった仕掛けづくりができるとうい御提案です。こちらに関しては、委員からも御提案というか、今回いただいたのをちょっと読み上げさせていただきます。

こちらがそうです。書架展示のライフスタイル別、ターゲット別、再編企画というタイトルでございます。NDC一辺倒から来館ならではの価値である心に刺さる偶発的な出会いの確率を少しでも上げるための工夫があったらいいのでは。例えば中高生向けではなく、16歳のあなたへなどのより細分化した企画展示なども面白いかもといった御意見でございました。こういった御意見がある中で、中央図書館の見解としましては、NDCにこだわらず、ライフスタイルやテーマ別に分類している館が増加している。利用者にとって魅力的で目的の資料に出会いやすい書架になるよう、従来の考え方にとらわれない発想で研究を進めていきたいということでございます。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。これは分類については、わざわざNDC以外の分類をやるとうすると、すごい手間というか、コストがかかっちゃうので、基本的には私は、もうこれは日本全国標準化されているんですよね。だから、NDCの分類の中で、あとはどういふうに書架の見出し語をつけるか、あるいはそこにどういふ本を持ってきて並べるかというところを問題提起したつもりなんです。それで、どうもその点が御理解いただけなかったので、世田谷の図書館を実際に写真撮影して、写したものを少しだけ見て、時間にしたら四、五分で終わりますけれども。

[パワーポイント使用]

これは世田谷区内の実はある区立の図書館です。中央図書館じゃないですよ。こういうふうに入がずらっとぎっしり並んでいるんですよ。ここの間を歩いてお目当ての本が探せるだろうかというのが素朴な疑問なんです。

これは最初が鎌田図書館です。

鎌田図書館に行ったときに、これは実は編み物、男性もやるかもしれない、女性がやる編み物の棚なんです。そうしたら、ここの鎌田図書館は、子どもの服、洋裁という見出しがこの書棚のこの短いところに貼ってある。こっちは赤ちゃんの服、小物、赤ちゃん、この下が本当はあるんですよ。そこにも書いてあるんですが、子ども、赤ちゃん、大人の服

の編み物とここはなっているんです。そういうふうに分けているんです。

これは粕谷図書館です。ここは本当にいろんな工夫をしているということが書棚の間を  
行くと分かるんですよ。編み物がどうなっているか。

これは粕谷図書館、何とここは編み物はNDCの分類で594なんです、色で分けてい  
るんですよ。このオレンジ色が編み物で、基本・小物、黄色は女性の編み物、緑は男性な  
んです。男性用の編み物、同じNDCの分類594だけれども、赤が子どもって書いてある  
んですよ。それがここに全部書いてあるんですよ。だから、本のラベルの色で、女性の洋  
服を編むのか、男性用かが、あるいは子ども用の編み物について書かれているのかが分か  
るんです。さらにこっちはレース編み、またレース編みは別なんです。こっちはキルト、  
バッグ、コサージュというふうにラベルの色で分けているんです。ここは細かいんです  
よ。だから、編み物でも、自分が探しているお目当ての編み物の本がどこにあるかが色で  
見ていくと、分かるんです。

この粕谷図書館で、私、とにかく棚を見ていて面白かったんです。それは例えば犬猫の  
飼い方、犬ってわざわざ一番上に書いてあって、犬は645だと、猫も645、赤いシール、さ  
らに、愛玩動物、家禽——家で買って卵とかを産ませる、つまり鶏だとか、七面鳥だとか  
の扱いなんです。これは家禽というのは646ですよということがここで分かるんです。だ  
から、書棚の間を歩いていても、いろいろ細かいことが、私が探しているのはこういう棚  
なんだ、あるいはこんなことに関する本がここに置いてあるのということに気がつくんで  
す。ほかにも、これは犬という見出しを出している。書架の間に挟んでおいて、ここに犬  
に関するものがありますよ。

さらに、社会学のところに行くと、家族関係、婚姻問題、男性問題、こういう見出しが  
やっぱり書架の一番上に出てくるんですよ。だから、そういう本がある。これは社会学と  
いう見出しだけだと、中がこういうふうに分かれていることは、多分普通の人は気がつか  
ないんですよ。こういうのは細かくは、こっちは児童、青少年、老人問題、性の問題、そ  
れぞれにちゃんとNDCの細分したものの番号をここに表示してある。こんなことをやっ  
ているのは、多分世田谷の区立図書館で私が見る限り、粕谷だけです。面白いと思う。棚  
の間を歩いていても、へえ、こういう本があるんだと。ただし、後で言いますが、これは  
みんな本が縦に並んでいて、ぎっしり詰まっているから、いわゆる本の面出し、表紙が全  
然出ていないから、余裕がないですよ。この背だけ見て、これと関係する本を探し出す  
のは、ちょっと大変かもしれない。

これも粕谷図書館ね。つまり中学生、高校生向けにここは部活物語という、世田谷区全体そうです。部活物語というのが中学生、高校生向けの新書を中心としたコーナーで、そういう展示をやっているんですよ。これが入り口を入れて階段のちょっと脇で、要するにちょっと人目につきにくいところに中学生、高校生向けのコーナーを設けているんです。逆に言えば、大人の目をあまり気にしないでここで本が選べるというところはあるんです。

粕谷の次は桜丘の図書室、これも区民センターの1階だったかな。今まで紹介したのは全部区民センターと併設です。

ここの図書館に行ったときに、こういう書架の見出しがきれいにそろっているんです。336のところ、経営管理、事務管理、会計学、経営政策、合理化、あと337が貨幣、通貨なんです。これは今、円安の問題とかがありますよね。貨幣の問題だとか、あと金融市場、租税、こういう棚がNDCで分類していても、4桁、小数点以下1桁目までは分かるように出されている。会計学なんていうのもここに公認会計士を目指す人が読みそうな本なんかもちろんと並んでいるんですよ。これがどこでもやられているかということ、実はそうじゃない。

これが最近できた梅丘の図書館です。

梅丘の図書館に先週行ってきたんですが、ここの棚を見たときに、ここは社会科学で336、経営管理338、次へ飛んで金融、銀行、次に345に飛んで税金なんです。この間の本がないのかといたら、そんなことはない。こっちの棚にはちゃんと並んでいるんですよ。そこに何があるかということ、例えばさっきの337、桜丘の図書館にあった貨幣、通貨とか、338金融、銀行、信託という338の本だってここに並んでいるんですよ。それこそつみたくてNISAに関する本なんていったときに、ここに実は並んでいるんですよ、そういう投資の本だとか。でも、ここだけ見ているとそれが分からないんです。これが今の申し訳ない、梅丘の新しい図書館で、さっきの細かく出てくるのが桜丘の図書館なんです。私は冗談半分で、梅と桜でこんなに違うんだと思いましたけれどもね。こっちはとにかく梅丘の図書館は、館長さんに聞いたら、まだそこまで手が回らないんだと、こういうサインも、自分が着任したときにはもう出来上がっていて、これからこういうところを整備していきますとはおっしゃっていましたが、こういうものの工夫次第で、この棚にどんな本があって、自分が日頃関心を持っているテーマと一致したら、ちょっとここをのぞいてみようかという気になるんです。

だから、ここは日本の文学小説がずっと並んで、普通小説はどこの図書館でも日本全国、著者、作家さんの名前の頭文字の五十音順で並んでいるんです。アから始まって、ずっとラ行に行く。それはいいんですよ。だから、ここも著者の五十音順で書いてあって、ア、カ、サ、タ、ナ、ハ、マ、と書いてあるのはいいんですよ。でも、この棚のどこからアが始まり、カが始まり、サが始まるかは、これでは分からないんです。作家で主な作家の人はここに出ていますよ。村上龍だとか、山岡荘八、山崎豊子さんとか、そういう著名で何冊も本がある人の作家の名前は出てきますが、一体ヤ行がどこから始まって、それこそカ行やサ行がどの棚から始まっているのかは、ここでは分からないんです。こういうのも工夫次第で、ある特定の作家を探している人が見つけやすくする工夫はこれでできるんですよ。

これが玉川台の図書館、これも区民センターと一緒に、そこの3階にこの図書館があるんです。

ここに例の部活物語が、世田谷区全体でとにかく部活物語を統一テーマにして、ヤングアダルト向けの本を集めているわけですよ。だから、ここには輝かしくも悩ましくもある10代の皆さんにお勧めする本ですというのが、さっきの粕谷図書館と一緒に、ここでもこういう展示がありました。

こういうもので、図書館がそういう中学生や高校生の皆さんにもアプローチしようとしているんだということを知らせるのは大事だと思いますね。もう少し何か目立つような工夫をしたほうがいいかもしれませんが、世田谷区全体ではこの部活物語ということで、各図書館で展示をやっているようです。

これが砧の図書館、ここは同じように感じました。

ここは読書リーダーだ。読書リーダーがお勧めする本ということで、本の紹介がされていました。こっちもそうね、読書リーダーのお勧め本、これもだから、もう少し定期的に頻繁に入れ替えるなり、もう少し館内でも分かりやすいような展示をやったほうが効果はあるのかもしれませんが。読書リーダーがそれぞれの図書館で、それなりに工夫した展示をやっているというのはよく分かりました。

次へ行ってください。最後、ちょっと世田谷区以外を紹介しますね。これは滋賀県の東近江の蒲生の図書館なんですよ。ここの展示をちょっと紹介したいんですが、ここの中央図書館ではありません。これも東近江の地域図書館、中へ入ると、1つ確実に言えることは、まず一番上に本の表紙が見えるように並べているんです。こういう書架の普通のところ

ろにも表紙を見せて展示をしています。そのほうが確かに、この書架の間を回る人は、本を手に取りやすいし、どんな本が並んでいるかがよく分かるんですよ、やっぱり表紙を見せたほうが。

書架の見出しなんです。どういう言葉を使っているか、例えばこれは、「田んぼや畑で汗をかく」。農作業をやるような、農業に関するような本については、こんなような言葉で表現しているわけです。

「自然と数の不思議」数学だとか、自然科学、これはもう数学の本がずっと並んでいるんですが、それを数学という言葉を使わずに、「自然と数の不思議」というような言葉で表現しているわけです。分類はNDCですよ。NDCで分類するんだけど、その書架見出しをこういう言葉遣いで、一般の方でも親しみが持てるように工夫しているわけです。

「生き物の営みを知る」。だから、生物なんです。生き物、動植物についての本をこういうふうな表示で示しているということ、しかも当然、物によっては表紙を見せて並べる、そういう工夫をして、手に取りやすいような工夫をしていることが分かっただけだと思います。

もう一つが、これはちょっと隠れちゃったね。これは実は北海道札幌市の図書館、情報図書館というんです。これも札幌市の中央図書館ではありません。ただ、JR札幌駅のすぐ近くにオープンした地域館なんです。この展示なんかはもうほとんど表紙を見せて、ずっと並べている、新しい本については。だから、世田谷の図書館はもう古いので、書架がいっぱいなので、もうぎゅうぎゅう詰めになっているんですが、ここは比較的新しいので余裕があるんです。

ここは閲覧席のいわゆる机がないんです。だから、結構多くの大人の方も、シニア層も含めてこうやって本を読んでいる。本や雑誌を読める。そういうふうなつくりになっているんです。だから、ここではあまり生徒さんは、机がないと勉強しにくい、したがって、大人の方々が新聞や雑誌、本をこうやってくつろいで読んでいる。これは言うておきますが、別に土日じゃない。この日は平日、木曜日だったんです。

ここでも本の展示は、例えば働き方というテーマを掲げて、ここにいろんな分類の本で、働くことに関係したものをここに集めちゃっている。この展示が終わったら、それぞれの本は元のNDCの分類のところに帰っていくんです。ただ、このときは働き方というテーマ。

もう一つのテーマをお願いします。これが恋愛というテーマなんです。心理学寄りの恋愛の話もあれば、社会学でやっぱり性的な問題を扱ったような本もあるし、実はここには例の「100万回生きたねこ」かな、あれが何で恋愛なのかなと私は思ったんですが、そういう本も表紙を見せて展示されているんです。

ここは、今度は終活なんです。終活に関する本がこうやって表紙を見せたりして、いろんな小説もあれば、やっぱり福祉だとか、老後の問題を社会的に扱ったような本もここに集められているということになります。

また世田谷の図書館に戻ってきたんです。今、最後にあった図書館と、この本の並び方、やっぱり大分違うんですね。あまり表紙を見せて並んでいない。そこにどういふ本があるかの表示もあまりされてない。これは古くなった図書館は大体こういうのが多いんですけども、全面的に、さっきの「生き物の営みを知る」みたいな、ああいう情緒的な表現がいいかどうかは、これは人によって意見が分かれるんです。私は正直言ってあまりあれは好きじゃないです、あれは受け止め方がかなり個人差があるので。ただ、NDCの言葉遣いをそっくりそのまま使うのはちょっとやぼだなと思うんです。やっぱりもう少し親しみが持てて、それがどんな本なのか、内容が素人でも分かるような言葉遣いというのは必要だろうというふうに感じております。

時間を取ってすみません。ありがとうございました。というようなことを、ここの分類と配架・書架見出し・展示のところでは提起したかったということになります。

今のを御覧になった上でお気づきのことがあれば、この機会にぜひお聞かせいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。どなたかございますか。世田谷としては、やっぱり問題点の所在については多分気づかれているんだと思います。

○委員 素人意見であれなんですけれども、世田谷区の図書館は全体的に多分もう古いので、なかなか面出しできるスペースがやはり難しいのかなと思うんです。今日見たら、中央図書館は新しい、立てかけて面出しをするラックみたいなものができていて、すてきだなと思ったんです。例えば本の予約をして、世田谷区内の本を自分の最寄りの図書館にやるという操作がちょっと御高齢で難しかったりとか、ちょっと面倒だと思う人というのは、やっぱり行ったときにその棚にある本しか借りられないみたいなので、例えば図書館同士の本を3分の1ずつ入れ替えたりとか、1年に1回入れ替えるとか、そうすると、例えばこの作家の本が好きだったのが、上北沢図書館にはこれしかないけれども、ほかの図

書館から持ってきた本も読めるとか、そういうことは難しいのかなど。

あともう一つ、図書館ってやっぱりいつ行っても同じでつまらないというイメージがある方もいると思うんですけども、私が好きなのは、返却された本のコーナーというのは結構好きで、返却された本があるコーナーというのは図書館にしかないじゃないですか。誰かが選んだ本なので、やっぱり世の中でこういうのに興味を持った人がいるんだという、その選ばれた本が返されたというところなので、でも、それも割と1日だけしか置かれていない場所とかがあるので、それをもっと1週間とか置いて、再貸出しができるようなシステムとかをつくると、図書館の人もあえて展示とかしなくても、新しく何かを作らなくても、自動的に動いていた本がそこに並ぶので、それを見て、次、こんな本もあるんだという本との出会いになる場所、新しい、自分が選ばない本との出会いになる場所がその図書館のそのコーナーというのでできないのかなとちょっと思ったりしました。

○会長 ありがとうございます。

ほかに今の本の配架とか見出しの問題について、御提案とか、御意見があればお出しください。後でまとめて図書館側で反応をお聞きしたいと思います。よろしいですか。

今の委員の御意見について、何か応答があればお聞かせいただきたいと思います。

○事務局 まず本を入れ替えるという話なんですけれども、ある自治体では、中央図書館のほうで一括して本を購入して、それを分館のほうに分けて定期的に入れ替えるというようなことをされているというふうに伺っております。ただ、世田谷でそれをやるとなると、やはり各館ごとにこれまで蔵書構築、蔵書構成など、いろいろ考えてつくったコレクションですので、なかなかそのあたり、実現するのは難しいかなというふうに考えております。

あと返却された本コーナー、そちらのほうをあえて借りていらっしゃる利用者が多いということは、図書館としても十分承知しております。やはりほかの人が読んだ本は楽しい本に違いないみたいなことをおっしゃる方も多いので、そういった利用者の方もいることは承知しておりますので、返ってきた本はすぐ書架に戻さず、しばらくの間置くような、そういう運用方法をしている場合もございます。

以上になります。

○会長 委員よろしいですか。

○委員 ありがとうございます。

○会長 世田谷の図書館は、さっきも言いましたけれども、少し古い図書館も多いので、配架、特にやっぱり面出しをもう少ししてもらったほうが、利用者の方は本がを見つけやすい、探しやすいと思います。その場に置かれる本の数は減るんですけども、その棚にどんな本があるかは見えやすくなると思います。

○委員 質問なんですけれども、例えば先生の今みたいな御紹介とかというのは、例えば館長会とか、いわゆる学校の先生とかの研修みたいなことになると思うんですけども、そういう機会というのは、いわゆる今の図書館の、こういったパターンがあるよとか、情報とかということに対しての研修みたいなものというのは、館長というか職員の方にはあるのでしょうか。というか、やったらいいんじゃないかなと思いました。

○事務局 館長会に関しては、月に1度必ず行っておりまして、いろいろな情報交換をしているところですけども、当然この協議会で出た御意見なんかも紹介したりですとか、具体的にこういうことをやっていこうよみたいな、そういった提案も含めて意見交換はしております。実は私もさっき拝見しながら、我々だけじゃなくて、もっとみんなで見られるといいなというのは率直に思ったところで、それもまた、来年度、館長会がございますので、そういったところで意見交換をしていけるといいと思いますので、ぜひ活用させていただければと思います。

○会長 ぜひ前向きに御検討いただければと思います。ありがとうございます。

それでは、時間も迫っておりますので、次の4番、5番以降に移らせていただきます。4番が自動貸出機、いわゆるセルフ貸出機の利用促進策です。これについて説明をお願いいたします。

○事務局 そうしましたら、7ページを御覧ください。中段以下でございます。1つ目が、自動貸出機の位置づけや設置目的が中途半端であると。これに対して中央図書館から

は、自由に貸出受付ができる場所を増やすことで、利用者の待ち時間解消といった利便性向上と職員の業務軽減を主な目的に導入しているということでの回答でございます。

次のポチが、単に機械を導入するだけではなく、図書館職員がより一層の専門性や本に対する造詣の深さを担保してほしいという御意見でございます。中央図書館としましては、選書やマネジメント研修といった内部研修、国立国会図書館等が実施する外部研修など職員の人材育成を継続的に図る、レファレンス研修の実施回数を増やすなど、取組を強化しているところだと。今後はレファレンスにつながる様々な相談スキルの向上に向けた研修などを検討し、窓口のレファレンスにつなげる入り口という原点に立ち返るための研修の実施なども検討したいということでございます。

次のポチが職員の専門性を向上させ、生身の人間でなければできないサービスは職員が提供する。機械でも提供できるサービスはAIなどをうまく活用し、区民利用につながるものが導入する意義だと。これに対して中央図書館では、中央図書館で設置場所の変更を検討している。利用者数の動向を注視しながら、レファレンスやフロアワーク対応などコミュニケーションにより注力できるよう検証した上で、今後の地域図書館での設置位置の変更を検討していく。梅丘図書館では予約図書コーナーを設置しているので、検証していく。また、スペースの都合等で設置が困難な館でも予約資料のセルフ貸出しができる新たな方策などを含め、検討を進めていくということでございます。

最後のポチです。こちらは図書館がコミュニケーションが生まれるような役割をある程度担っていけるとよい。ここに関しては今日欠席の委員からも御意見をいただいているので、御紹介させていただきます。梅丘などで既に実現しているカフェ併設でのサードプレイス化です。こちらが25.5%の人が要望している閲覧席の増加や滞在する場所を求めている証左です。面積に余裕のある館からでも検討したらいいと思います。砧や尾山台などですがというような御意見をいただいております。中央図書館として、コミュニケーションを図りやすいサービス環境の整備や新たな図書館サービスの導入についても今後検討していくという見解でございます。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。この4番目のテーマにつきましてはいかがでしょうか。セルフ貸出機の活用促進。

○委員 梅丘を使われた方の予約の話をちょっと小耳に挟んだので、多分始めたばかりというところを一応考慮してなんです、その予約をして、私たちは今まで当たり前だと思っていたんですが、5冊借りるんだったら5冊をまとめて、今までカウンターからいただくことができていたのが、あの機械は一冊一冊自分で探さなきゃいけないという状況だったらしく、多分よく本を借りられる壮年ぐらいの年齢の男性だったらしいんですけれども、自分で探さなきゃいけないと、やっつけられるかと言って、もういいと言って代田に変えたとか、梅丘が近いから梅丘に行ったけれども、機械を試してみたけれども、一冊一冊、そのスペースに入って、自分で自分の借りる5冊やなんかを手にとって、一々かんかん、かんかんやらなきゃいけないというのに納得いかんと言って、代田のやっぱりカウンターで借りると。代田でひとしきりそういうことを話して帰っていったという話を聞いたので、そこはもしできるのであればというか、できるはずなので、個人の名前で一気にまとめてというふうにしていただけるといいんじゃないかなというふうに思いました。

だから、これがその貸出機の盲点だとは思いますが、15冊とか借りられる状態で、15冊をやったときに、その15冊を一冊一冊あそこのちょっと狭いスペースから借りなきゃいけない。当日、聞いたら、上から下まであるんですけれども、変な話、妊婦さんが一番下の本をかがんで取るというのはすごく難しい。一応お手伝いはすることになっているんですというふうにお答えいただいた職員の方から聞いたんですけれども、現実、稼働したときに、人が全くいないから、コンシェルジュか何かのところにもすごく長蛇の列ができていて、そこを使って、こういう本がありますかと聞いたら、すみません、分かりませんってすごくこやかに答えて終わってしまって、あれっと思い、ほかの図書館に行ったら、ええって、すごい忙しそうに不機嫌そうな方が、ちょっと待ってくださいと言って、すごくいっぱい本を持ってきてくれて、すごく一生懸命探してくれたという話もあって、本当にまだ始めたばかりなので、これからいろいろ変わっていくんだろうとは思いますが、直近で、そういった、そうだったと思うようなことがあったので、この機械の使い方、機械に使われないような形を少し考えていただければいいかなと思いました。

○会長 ありがとうございます。今の話は私は知りませんでした。予約本の取る場所。

○委員 はい。

○会長　そうですか。それはどう考えてもシステム上の問題だな。それはもう図書館側も問題点は当然気づいているわけですよ。それはいろんな方から言われるんでしょうか。ありがとうございます。それはぜひ改善していただいたほうがいいと思います。

ここでの自動貸出機の利用促進について、利用者の立場から何か御意見があれば、あるいはそれによって職員とのコミュニケーションをもっと増やそうというような趣旨で御提案もいただいております。これについてはよろしいですか。ぜひやっぱりセルフの貸出しを伸ばしたほうがいいと思うんですが。

これは私からの提案なんですけど、今どう考えても、図書館でセルフ貸出機を利用したら、せたがやポイントがつくとかというようにしたほうが、それは利用促進になりますよ。だから、1冊、カウンターじゃなくてセルフの貸出機を使ったら1ポイントでもいいですよ。それがせたがやポイントとして、あれは世田谷の地元のお店で買物か何かで使えるわけでしょう。それをつけるというのが多分一番分かりやすい利用促進だと思います。ただし、これをやると、本は読まないけれども、とにかくポイントが欲しいからだといってポイントの荒稼ぎに使われちゃうんです。だから、やっぱり1日の上限とか、1年間での上限は決めておいたほうがいいと思います。でも、そうやってとにかく職員の労力を多少なりとも軽減し、職員が本来の仕事のほうに専念できるような環境を整えるという意味では、あのポイントの活用というのを私は考えてもいいんじゃないかというふうに思います。その代わりに、だから、利用登録券がアプリか何かと連動しなくちゃいけないので、多分スマホでやらないと、今の普通の貸出券とそのポイントは連携はしづらいと思いますので、ちょっとその辺の工夫は要るんですけども、こういうのを行政として促進するのであれば、ポイントの活用というのは考えられると思います。意見として出しておきます。

○副会長　僕は、赤字のコメントにもあるように、コミュニケーションの場として、本の貸出しをするときのやり取りというのは非常に大事だと思っているのですが、一方でタイパをすごい気にする人が今増えているわけですよ。例えばコンビニとかでもセルフレジが増えてきてますよね。僕は今日もコンビニでコーヒーを買ってきましたが、コーヒーは有人のレジじゃないと買えない店舗がよくあったりして、だったら、セルフレジは要らないんじゃないかと思ったりもするわけです。一方で、コンビニで会計待ちの長蛇の列ができていて、明らかに暇を持て余してそんな店員が3人ぐらいいるのに、1つしかレジが開い

ていないという状況を見ると、セルフレジを導入しろよと思うこともあるわけです。

何を言いたいかという、お店だったら、店員さんですよ。図書館だったら、図書館のスタッフの方の effort（時間・労力）が、通常業務の中で何にどれくらい使われているかという、その配分次第で、別に自動貸出機を使わなくても有人で賄えるのか、やっぱり自動貸出機を導入しないと、本来100しかない effort を超える業務量をスタッフの皆さんがこなさないといけなくなってしまうのか、その辺の議論がないと、本質的な話にならないのかなと思いました。

○会長 ありがとうございます。カウンターにいる職員が本来どういうことをすべきなのか、その辺の業務としての優先順位ははっきりさせたほうがいいと思いますね。優先順位が低いような単純な貸出業務であれば、それは確かに機械にお任せしたほうがいいのかもしれませんが。操作性の問題だとか、それなりの使い方の分かりやすさというのは当然、先ほど委員が指摘されたような予約本の利用も含めて、そこは検討の余地があるんだろうと思いますが、将来的にはやはりもう少し使っていてという方向を目指すべきだろうと思います。

御意見ありがとうございます。よろしければ次の5番目、今度は利用者アンケートということになります。説明をお願いいたします。

○事務局 そうしましたら、9ページを御覧ください。こちらはまず1つ目の御意見として、視覚障害者の方の集いが開催されているうめとびあや高齢者の多い整形外科といった医療機関でもアンケートの実施ができるのではないかということです。中央図書館の見解としては、来館者を対象として実施しており——これまでのアンケートです——満足の推移等を把握してきたと。障害のある方や非来館サービス利用者、図書館をあまり利用していない方も含め、調査対象や内容を整理し、調査方法を検討していきたいということです。

2つ目のポチ、利用者の生の声が反映されるような仕組みもつくっていけるとよいということです。中央図書館としては、より広く意見を吸い上げる方策と利用者の声を深く掘り下げていく方策と、使い分けながら図書館運営の改善につなげていけるよう検討したいということです。

3つ目のポチ、トレンドを正しく把握するため、母集団の大きなずれが出ないように、政

策モニターに対して定期的なアンケートを実施することで取組に対する評価や効果などが見えてきやすいという御意見です。中央図書館としては、区政モニターの活用など、比較的同質な母集団の方に継続的に御意見をいただくよう調査方法について検討していきたいということです。

こちら最後のポチです。こちらは、図書館でどのように過ごしているのか、質的データ——10ページのほうに行きます——を調査を実施してもよいのではないかと。これに対して中央図書館は、来館者の滞在時間、滞在中の過ごし方を把握し、分析することは有意義なので、経費等も考慮しつつ、効果的な把握方法について検討を深めていきたいという回答でございます。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

続けて、最後6番も、広報ということで、利用者の実態を知らせるという意味では関連すると思いますので、続けて6も御説明をお願いいたします。その後、まとめて委員の皆さんから御意見を頂戴します。どうぞ続けてください。

○事務局 そうしましたら、11ページになります。こちらは1つ目のポチ、読書体験のような事業を行うと電子書籍の普及により弾みがつくのではないかとということで御意見です。こちらは委員の御意見でしたので、委員からもメールでいただいている御意見があります。御紹介いたします。タイトルとしては、誰でもどこからでもアクセス可能であることをアピールというものでございまして、1つ目、中高年向けの電子図書の読み上げ音声を聞く体験会の定期開催、御自身のスマホを持参してもらって、老眼や視覚疲労に悩む本人あるいは高齢の家族などのために電子図書の聞く読書の实用価値を周知させるということです。次、Bの提案です。紙の本の新しい借り方の提示、まず、電子書籍で内容を試し読み、そして紙の本を予約、そしてブックボックスで受け取りという完全非来館ルートを一本の動線として設計し、来館しない利用者も図書館サービスの圏内として位置づけ、このルートの周知、利用促進を行う。完全に同じ書籍が電子図書と紙の本の蔵書、両方で存在するケースは少ないかもしれませんが、試し読みから予約の網を同じ作家、同じテーマなどに広げれば、可能性は高まるかと思っておりますという御意見でございました。中央図書館としての見解です。実際に利用体験をしていただくことが普及への弾みになると考えるの

で、読み上げ機能の体験についても検討させていただきたいということです。

最後のポチです。SNSで気軽に発信できるような方針があると図書館の魅力を発信しやすいのではないかと。中央図書館として区の子育て情報をLINEで周知したところ、それをきっかけに会社を知ったという実績があったと。今後、区が保有するチャンネルを活用し、情報発信の充実を図っていきたい。また、あわせて、内部向けの情報発信についても職員の確保、育成の観点から重要な取組であるので、図書館業務の魅力を発信などを通じて職員の意欲向上や将来の中核人材の育成につなげていくという見解でございます。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。時間の都合もありまして、5番目と6番目を今併せて御説明いただきました。この両点につきまして、何か御質問、御意見があればお願いいたします。6番のところに電子書籍の周知というのにも含まれるんですね。

○委員 以前にも話題になっておりました各図書館のおはなし会ですとか、イベントですとかを案内する情報提供の場所が、ホームページから入って各図書館のところに行きますと、行数の制限があるために、これからまだ行われる行事がそこには載っておらず、しかしながら、よくよくお話を聞くと、一番最初のページに、各館へ行かないところでの図書館全館のイベントへ行くと、そちらには載っている。具体的には、私が所属しているボランティアグループが、新しい梅丘図書館で活動を再開しましたが、初回の3月8日だったか、その会の案内は、各図書館の梅丘から入るときは掲載がありませんでした。ただし、実際は全館の案内へ行ってみると、そこには載っている。載せてありますというお話で、それを指示どおりにしましたら、確かにありましたけれども、普通の一般の方は、この図書館で何があるかというのは、やはりその図書館のところを開いて情報を得ると思います。きっとそういう質問や苦情というものが届いてはいないでしょうか。そういった、あるのかないのか分からなかったから、来たらなかったとか、ないと思ったら、やっていたとか、そういった、実際私どものところには、会に足を運んだのになかったとか、来てみたらやっていたとかいうことがありますので、広報ということもそうですが、実際の情報提供について、ぜひ使いやすいホームページに、正確な情報を必ず掲示していただきたいなと思いますので、よろしく申し上げます。

○会長 ありがとうございます。今、具体的な御指摘だったと思います。これはホームページ上のつくりの問題なんですかね。図書館側で分かっていたらお答えください。

○事務局 率直に申し上げて、区のホームページに関しましては、図書館に限らず、非常に苦情が多くて、図書館のページについても、こう言うのはなんですが、私自身も必要な情報を探し出せなくていららするときがあります。どうしてもシステム上の仕組みの問題があって、なかなか自分たちもつくりたいようにつけれないというジレンマがあるのと、確かに情報がいろんなページに拡散してしまっていてというのがあるので、これは我々も気をつけながら、何か新しいお知らせを載せるときには、意識はしているんですけども、なかなか今のようところが全部解消するのが難しく、ぜひお気づきのところはどんどんお声を寄せていただいて、潰せるものをどんどん潰していく、今そんな状況でございます。ホームページも今後、SNSの活用なんかもいろいろ併せて、改善を図っていきたいと思っておりますので、少なくとも必要な情報がしっかりどの世代にも届くようにというところを意識してやっていければと思っております。

以上でございます。

○会長 それはぜひお願いしますね。だから、ここにも、今の公式ホームページのことだから、それが区のホームページから開いていくわけですね。たどっていくわけ。私も1回やったことがある。確かに世田谷のは分かりづらいです。それはぜひ改善していただいたほうがいいと思います。SNSとか電子書籍以前に、まずそこは大きな問題だと思います。ありがとうございます。

○委員 梅丘図書館のインスタを私はフォローしているんですけども、そこで何かイベントがあるという、その参加者募集がいついつからですと、その投稿がもう参加者募集が始まって何日かしてから出ていたんです。もっと事前にそういうのはできないのかなとちょっと思いました。

○会長 それは梅丘の図書館ですね。そうすると、それは指定管理の業者の話になっていくんですか。そこはどうですか。

○事務局 実際にインスタのほうは、おっしゃるとおり、最短ですぐ載せるべきだと思うんですが、そこに区のチェックが入ったりして、たまにちょっとタイムラグが生じている可能性もございまして、気をつけてやっていきたいと思います。申し訳ありませんでした。

○会長 SNSは活用するんだけど、区としてのチェックが当然指定管理の場合に入ってくるということなんでしょうね。ありがとうございます。

この5番、6番についてほかはいかがでしょうか。

○委員 今回のアンケートは、用紙を鉛筆と一緒に置いておいて、書きたい人は書いてくれるという方式だと思うんですけども、普通民間では、一般的にはみんな積極的にアンケートを取りに行くんです。したがって、そういう方向じゃなくて、お願いしますと言って、そのアンケート用紙を借りた本に挟んで、次回返すときに返してねというふうにするとか、漫然と置いておくんじゃないかと、あるいは図書カードをするときに、みんな電子メール、アドレスを登録しているはずですから、そこにSNSでアンケートをお願いできませんかと流したりするとか、そういうふうに積極的に取る方法を考えられたらいいような気がしますが、以上です。

○会長 ありがとうございます。御提案をいただきました。後で答えをお願いしますね。

○副会長 さっきインスタの話が出たんですけども、僕も梅丘図書館のインスタをフォローしてまして、そもそもインスタのアカウントがある図書館って、梅丘、経堂、下馬の指定管理の3館だけなんですよ。フォロワー数をみると、下馬だと250ぐらいで、梅丘が一番多くて600ぐらいですか。結構頑張っているんですよ。なので、むしろ直営のほうはSNSでの発信をしない今の状態のままでいいのかということ、今後議論したほうがいいんじゃないかなと思いました。

あと世田谷区立の図書館としてのアカウントというものは、多分インスタにはなくて、エックスのほうにあると思うんですけども、そちらもポストが全然なくて、アカウントだけあるみたいになっちゃっているようです。自分の話になっちゃいますけれども、僕なんかは結構蚤の市とか、骨董市に行くのが好きで、結構インスタのリールに知らない骨董

市やマーケットの開催情報が流れてくるんですが、それはやはり僕が骨董市関連のアカウントばかりフォローしているからなんですね。なので、どんどんSNSとかを活用していったほうがいいんじゃないかなと思います。

○会長 御指摘ありがとうございました。やや違う観点からの御指摘でした。今、お二方からの御指摘があったんですが、これについていかがでしょうか。アンケートのほうと今のインスタのほうと。

○事務局 まず、アンケートのほうにつきましては、本当に御指摘のとおりだと思っております。現状のやり方ですと、どうしても来館された方に対してというところに限られてしまっているので、これからは来館されない方に対してもしっかり取っていただけるように方策を工夫してまいりたいと思っております。ここに書いてあるんですけども、とにかくより多くの人からたくさん取れる定型的な質問とともに、あとはより深く掘り下げていくような、特定の方にポイントを絞ってやっていく、その両面からしっかり取り組んでいきたいと思っております。

あとインスタのほうですけれども、このままでいいのかという御指摘に関して、全くもってこのままではいけないと思っております。全館でいきなりというのはなかなか難しくても、例えば幾つかの大きな館で始めてみるですとか、失敗を恐れずにどんどんチャレンジしていただけるようにこちらも後押しを職員のほうに対してしていければなと思っております。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

○委員 アンケートについて、アンケートにも、先ほど会長がおっしゃったようなポイントをつけるということで、ふだん使わない人のアンケートが取れるような気がするので、一応提案します。

○会長 ありがとうございます。セルフ貸出機の問題も含めて、そういう何かインセンティブを与えるような方法は考えたほうがいいんですが、いたずらにポイント稼ぎを認め

るようなことは行政としてはやりづらいので、そこのバランスは考えつつ、やっぱり答えやすくする、多くの人が答えてみようという気にならせることは考える必要があるとは思っています。

アンケートは、私もこの指摘に書かれているとおりになんですよ。私、これは経年変化を見たいわけだから、ある程度同じような集団が年を追うごとにどう答えが変わっていくかというふうにやらないと、先ほど委員の言うとおりで、図書館にアンケート用紙と鉛筆だけを置いておいて、ああいうやり方をやると、大体文句を言いたい人がすごくいろいろ書いてくるというパターンが多くて、均一の集団になっていないことがあるので、ちょっとそこは考えたほうがいいだろうというふうには思います。だから、SNSもうまく使えば多くの人の声を拾うことができる。だから、やっぱりマネジメントに生かせるような集団からの図書館に対するフィードバックというのは考えていっていただきたいと思います。それは継続して考えていくべきことだろうと感じております。

委員、ありがとうございます。

この5番、6番あたりの項目につきまして、ほかにいかがでしょうか。そろそろ終わりの時間も近づいてきているんですが、どなたかもうお一方でも御発言があれば承りますが、よろしいですか。

そうしましたら、今日いろいろと出た意見を基に、事務局のほうで修正、あるいは追記を、今日の出てきた資料1に補足をしていただき、こちらで確認をさせていただくということによろしいでしょうか。事務局のほうで今日の記録を基に、ここに加筆、訂正をすることになります。今日も新たにいろんな意見が出てきましたので、それも盛り込んでいただけるとと思います。私のほうで一応会長としてそれを確認した後に、今度は事務局のほうから、委員の皆様へ最終案をお送りしまして、そこで確認をさせていただくという手順になります。それでよろしいでしょうか。

引き続き協力のほうをよろしくお願ひいたします。

全館共通協議事項につきましては、以上申し上げたとおりで、事務局のほうで修正、追加した後、皆様の活動実績として取りまとめられるということになります。御協力ありがとうございました。

それでは、次第の3番に移らせていただきます。ここには、協議会委員より意見、感想というふうに書かれております。第2期の任期も2年間ということで、とりわけ今年度は一昨年より、昨年よりも多い回数の会議を開催いたしました。それまでは4回だったもの

を、今年度、令和7年度は5回開催させていただいたということになります。委員の皆さんの御負担も多かったろうとは思いますが、次の期への引き継ぎといいますか、申し送りということも兼ねまして、最後に皆さんから一言ずつ御意見、あるいは御提案を頂戴したいと思います。時間も限られておりますので、手短にお1人ずつお願いしたいと存じます。

まず初めに、委員から順次、この席の並びで御挨拶いただきたいと思います。

○委員 2期4年間務めました。どうもありがとうございました。

これまで区立図書館についてはユーザーの立場でございましたが、今回、委員ということで運営する立場というか、視点で図書館を見ることができました。よい経験になりました。ありがとうございました。

この協議会の委員で議論する中で感じたことなのですが、私は資料の収集、保存、それから次世代への継承について関心を持っております。多分メンバーの方の特徴というか、サービスとか、それから児童サービスに関する議論はかなり深まったように思いますが、資料の収集ですとか、それから保存、それから次世代への継承については議論があまり深まっていなかったように思います。世田谷区の資料は、世田谷区立の図書館が持つべきだと思いますので、売っていない非売品のものについても、きっちりと収集していただければと思います。

それから、デジタルアーカイブについても同じです。世田谷区立の図書館だけではなく、文学館ですとか、郷土資料館ですとか、資料を持っている施設がありますので、そのあたりの施設とも連携し、できれば図書館がリーダーシップを発揮していただいて、資料の収集、それからデジタルアーカイブについても進めていただければと思います。

以上です。

○会長 ありがとうございました。

続けてどうぞ。

○委員 社会教育委員から来ていたんですけれども、専門性の高い方々の御意見を伺ってとっても勉強になりました。私は個人的には、各館の館長さんが説明されているのを聞いたのがとっても記憶に残っています。ありがとうございました。

○会長 ありがとうございます。

委員、どうぞ。

○委員 私は、自分は今の図書館に勤めて長いんですけども、公共図書館の視点から見るということがあまりなかったというか、全然なかったので、私自身が持っている視点がとても固定化されているんだなということをすごく考える会議だったなというふうに思います。

あとは、委員もおっしゃっていましたが、各公共図書館の方のお話を聞く機会を持てたのはすごいよかったし、私は全ての図書館に足を運べたわけじゃないんですけども、こういう機会をいただいて、行って見て、こんな図書館があったのかとかということが分かって大変ありがたかったです。ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。

委員、どうぞ。

○委員 前回と今回と4年間なんですけれども、一番気になっているのは、検証と評価というところの各館のシートの中に、どうしても各館の目的とか目標、その年、次の年に何をしたいか、こういうふうにやっていくんだという方向性がないというか、見えないというか、どうしても後々の報告になってくるので、私はできれば、各館が何を目的としてやっていくのかということを知って、そこに対してどういうふうになっているかということを知るような方向で見られるといいなと思います。前にこうやってきましたということではなくて、これからこういうふうにやっていきますという形でのことを見られると、またいろいろ変わるかなと思いました。

あとはやっぱり職員の方の専門性に関する貸出しだけではない部分ということの充実をより一層深めていただきたいなと思います。その中で、今回も話にはなかったんですけども、インクルーシブって今すごくよく言われている話だと思うんですが、そこに対してのアプローチが、多分りんごの棚だけではなくてきっと必要になってくるのではないかなと思いました。外国の方、世田谷区に3万人ぐらい住民票があるというのをこの間聞きまして、種々いろんな国の方がいらっしゃる。中央図書館には本があるけれども、やっぱり地域館にはなかなかないというのを伺いましたから、そういった方々がどうやって中央に

ある本を手に入れるとか、借りることができるのかという手段というのもあるので、そういったところのアンテナをなるべく広くつかめるようにしていただきたいなというふうに思いました。ありがとうございました。

○会長 ありがとうございます。

続けて、委員、どうぞ。

○委員 今回は、資料を拝見して、自分たちが日頃しているボランティアも、数値的に見るとこういうような参加者数ですとか、昨年比とか、そういう視点で見るということを知り、身の引き締まる思いがしました。視点を広く持つ、違った視点を身につけるという意味で、今回この協議会に参加させていただいて大変学ぶところがありました。

やはりこれからはコミュニケーション、自分たちが活動していく上で、実際図書館の方と話をきちんとして、少しでも幼い子どもたち、児童生徒の皆さんが本とつながる活動をしていけたら、支えていけたらと思っております。限られた関わりの中からの発言ばかりで申し訳ありませんでしたが、ありがとうございました。

○会長 お疲れさまでした。

委員、どうぞ。

○委員 私は、同じ区立施設に勤務する立場としまして、今回、図書館の様々な取組みを知り、改めて多くを学びましたし、その活動を支える皆様に敬意を申し上げたいと思えます。特に地域性を生かした事業の取組み、先ほど委員もおっしゃっていただきました地域のアーカイブ活動などは、世田谷文学館をはじめ、区内施設との連携がとても重要で、そこに大きな可能性というものを感じることができました。引き続き、連携についてのご相談をさせていただきたいと思っております。本当にありがとうございました。

○会長 お疲れさまでした。

では、こちらの列に移りまして、委員、どうぞ。

○委員 私は、中学校の立場でのお話だったので、なかなか小学校のところには明るくな

くて、やっぱり小学生と中学生は大分違うので、2年間、去年は小学校だったので、私は中学校の立場でお話をして、いろいろ聞けてよかったです。特に今日の協議事項の中で、やっぱり地域との連携、これはかねてから学校としても課題だし、どうやって促進していくものなのかなということは考えていたので、いろいろ聞けて、そこは大変勉強になりました。

学校の中に学校図書館があるというのは大きな魅力だと思うんです。子どもにとっては、もう日常的にそこを使えるわけですから。だから、僕は公立の区立の図書館と学校の図書館の明確な区別化というのはあっていいんじゃないかと思うんです。学校図書館にない魅力が何なのかとなると、PRもしやすい。手頃なのはやっぱり学校図書館になってしまうので、そこが学校からも勧められるものがあると、さらにいいかなと感じました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

続けて、委員、どうぞ。

○委員 2年間大変お世話になりありがとうございました。

主に今、中学生と小学生の子どもがいるので、子どもの利用状況について様々な細かい意見を出させていただきました。また、もともと図書館は利用するほうだったんですけれども、区内のいろいろな図書館に行きまして、また様々な年代の方のお話とかもお伺いして、より区民の方が使いやすくなる図書館に少しでも意見が出せたらいいなと思いました。子どもがもっといい本、質と量にたくさんもっと触れるようになればいいなと思って取り組ませていただきました。どうもありがとうございました。

○会長 お疲れさまでした。

委員、どうぞ。

○委員 あり方検討委員会から始めて、かなり長い間お世話になりました。本当に皆さん、ありがとうございました。

今回は特に地域館を含めて16でしたっけ、全部回らせていただきました。私は健康のために自転車で回って、そのついでに図書館のみならず、名所、旧跡、いろんなものを回っ

てとても楽しい2年間でした。

私はいつもとにかく文学、文芸が中心で、いつも何か面白いものがないかというのはずっと探していて、ラジオとかテレビとか、あるいは雑誌で、読書家の人がお勧めする本をほとんど全て読むんですけども、例えばプロとしての中央図書館長が読んでお勧めする本というのを、時々私は中央図書館に来るので、あのあたり、ぼんと読書感想文とともに推薦と書いてもらおうと、ぜひとも読みたいと思いますし、校長先生の読んだ本もどんなものがあるかなと実は興味があって、どこかに載せてもらおうと、それを読みたいなと思います。

これが終わりました、また一区民として、深沢図書館に、なかなか座る場所がありませんけれども、行きながら、借りたい本を借りつつ、時々アンケートに答えていこうかなと思います。どうも長い間ありがとうございました。

○会長 どうもお疲れさまでした。ありがとうございます。

委員、どうぞ。

○委員 私も協議会に出ていなかったら、本当に最寄りの図書館しか知らなかったと思うんですけども、こちらに参加させていただいて、いろんな図書館を巡って、それぞれの特色や違いも知ることができましたし、また、皆さんのいろいろな観点からの図書館についての御意見も伺って、それがとても興味深くて大変勉強になりました。

私はハンディのある方とか、高齢者の方の利用について関心があったんですけども、その点についてあまり取り上げられていなかったのも、今後それをもうちょっと取り上げていただきたいなと思います。

つい最近も、対面朗読のボランティアをしているのですが、今まで梅丘図書館を使えなかったのも、ずっと代田図書館でやっていたので、3月から梅丘図書館に移行したんですけども、当初すごく大勢の人がいらして、すごく職員の方もお忙しかったのは分かるんですが、その対面朗読室の空き状況を聞くのにも、電話しても、何日たってもその返答が来なかったり、こちらからもう1回電話して、日にちを決めて、1回目はよかったんですけども、2回目に行ったときは、その日は予約を入れていましたっけ、知りませんでしたみたいな、そういうことがありましたので、利用者さんもせっかくそれを楽しみにしていられるので、ちょっと残念だったなと思います。

でも、梅丘図書館は私も一番近くて、今度新しくなって、居場所とか、コミュニティーをコンセプトにした、今まで世田谷区の図書館になかった図書館なので、そういう立派な施設ですし、ハード面だけじゃなくて、ソフト面も充実した図書館になることをすごく期待しています。2年間ありがとうございました。

○会長 お疲れさまでした。

副会長、どうぞ。

○副会長 ちょっと体調を崩してしまって、昨年の上旬のほうはちょっと欠席させていただいたり、オンラインで参加させていただいたりして御迷惑をおかけしたんですけれども、前期から含めて4年間、図書館の議論に加わらせていただいて、私自身いろいろ勉強させていただくことができました。

最近やっぱりAIがものすごい勢いで進化していて、チャッピーとかジェミナイとか、そういったもので情報を集めようと思えば、情報が集まってしまうわけですよ。そうなったときに、図書館はどうあるべきかってすごい重要なチャレンジだなというふうに思っていて、ソフトの話とハードの話、多分両方やっていかないといけないと思っています。要はAIとかテクノロジーってものすごい勢いで進化していきますけれども、我々人間の体はそんなにスピード感を持って進化していけないわけですよ。なので、情報もネットでグローバルに集めてくるだけではなくて、やっぱり身体性を伴った情報というものを図書館がちゃんと提供できるかどうかというところが問われてくるかなと思っています。そこはやっぱりソフトのところ、いろいろプログラムを工夫してやっていけるといいんじゃないかなと思いました。

あと今の身体性という話で言うと、この間梅丘図書館に行ってきたして、結構感動したんです。個人的にすごくいいなと思ったのは、真ん中に吹き抜けがあって、階段がきれいに上に抜けているんです。僕の専門が建築や空間デザインなので、少し細かい話になりますが、階段が柱とか梁で支えられていないんですよ。上からつっているんです。なので、3フロアあるんですけれども、そこがものすごい抜けてつながっているように見える。高低差のある町側と崖の上の公園をつなぐハブとしての機能を、まさに空間の設計のところからしっかり考えられているんだなというのを、訪れてすごい実感しましたし、あとはやっぱり開放感のあるテラスがあったりとか、1階はカフェがあって、2階、3階

と置いてあるファニチャーも、サイズ感とか素材とか、一つ一つ違うものにこだわってつくられていて、ハードの面の空間や設えもどンドン工夫していかないといけないんだろうなと思いました。

先ほど本を手に取りるときに、やっぱりどうしても古い建物が多いため、ぎゅぎゅぎゅつと密度が高くて背表紙や表紙を見にくいという話がありましたけれども、これから多分また建て替えられる図書館も恐らく出てくるかと思しますので、そのときには、そういう余白とか隙間とか、間のある空間をつくっていけるといいんじゃないかなと思いましたし、今ある限られた空間の中でも、なるべくそういう余白のあるレイアウトとかを今後つくれるといいんじゃないかなというふうに思いました。個人的な感想と意見です。

○会長 ありがとうございます。

それでは、最後に、会長として私からもお礼を申し上げます。私自身はこの手の図書館協議会は、23区の中でも多分4回目かな、ほかの自治体でもやったことがあります。この世田谷区の図書館協議会は大変活発だし、議題が充実していたと思います。その分、委員の皆さんの御負担がかなり大きかったのではないかなというふうに案じております。それでも皆さんがいろいろと御協力いただきまして、とりわけ私が感謝申し上げたいのは、時間配分について、皆さん本当に行き届いた配慮をしていただきまして、大体毎回きちんと終わるようになっております。それは本当にありがたいことだと思います。ただ、一方で、十分皆さんが発言し、図書館に対する思いを吐露することができたのかどうか、議事進行の上で拙い部分があつて、場合によっては御迷惑をおかけしたのではないかなというふうに恥じております。その点がありましたら、この場を借りておわびしたいとは思いますが。

でも、2年間で都合9回にわたる会議を無事円滑に進めることができました。この点については改めて委員の皆様にお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

それでは、これで今日予定していた議題は終わりますが、最後に、図書館側から何か確認事項がございましたら、お願いします。

○事務局 本日、お話のあったように、第2期の活動最後の日となりますので、中央図書館長のほうからも一言だけ、時間が来ておりますので、簡単に御挨拶をさせていただければと思います。

私自身は今年度異動してまいりましたので、皆さんと御一緒できたのは1年間だけではあったんですけれども、この1年で一番私が印象に残っているというか、うれしかったのは、皆さんと各館長とで意見交換をさせていただく中で、つい図書館側としてはあまり強い自信が持てなくて、控え目に報告しているような成果であっても、すごく積極的に評価をいただける場面が多々あったと私は思っています。それが各館長たちの自信にはっきりつながっているなというのが、その後の言動なんかを見ていてもはっきりと感じられました。行政の仕事をしていると、どうしても厳しい意見なんかを頂戴することも多く、それに対してしっかり応えていくというのはもちろん大切なことですが、一方でやっていることに関してしっかり評価をいただけたことは、これからいろいろな改善をしていくにあたって、勇気をもって一步を踏み出す何よりの後押しになると思っております。改めて感謝申し上げます。

この2年間でいただいた御意見、一つ一つ改めて丁寧に検証のほうをさせていただきまして、全て一度にとはいかないですけれども、可能なところからぜひどんどん改善をしていって、大きな命題として図書館ビジョンの中で知と学びと文化の情報拠点の実現というところがございますので、そちらに向けてしっかりと取組を進めてまいります。お人によっては今回をもって協議会から離れる方もいらっしゃるかもしれませんが、ぜひ今後も引き続き様々な形で御指導をいただければと思っております。本当に2年間ありがとうございました。

以上でございます。

○事務局 そうしましたら、事務局のほうから御連絡をさせていただきます。この第2期の任期に関しては、皆様、委員の任期は3月31日までとなっております。ですが、この後、4月以降、会議録の確認ですとか、そういったところをまたメールさせていただきます。御協力をお願いできればと思います。

また、先ほど会長よりお話のあった全館共通協議事項、こちらは事務局のほうでしっかり修正、追記させていただいて、この2期の活動実績のほうに併せて記載をさせていただきます。また会長に確認の上、皆様にメールをさせていただきます。よろしく願いいたします。

区民の皆様、本当にありがとうございました。今後、区民委員の公募のほうもまた改めてさせていただきます。御案内もまた一応させていただければと思っておりますので、ぜひ

ひ御検討いただければと思います。

委員の皆様、本当に2年間ありがとうございました。

以上でございます。

○会長 それでは、これもちまして、令和7年度の世田谷区立図書館運営協議会の日程を全て終了したということになります。どうも皆さんお疲れさまでした。ありがとうございました。

午後8時35分閉会